

# Shizuoka Prefecture High School Basketball

## 静岡県高校バスケットの現在地

### プレイバック 静岡県高校バスケ 2015～2016

文=中島 洋己（県協会広報委員長・県立科学技術高校教諭）

現在、全国における静岡県高校バスケが『どのようなレベルにあるのか』を理解するために、昨年のウィンターカップから岩手国体までの静岡県勢の東海・全国での戦いを振り返ってみたい。  
(平成28年9月末現在)

#### 【ウィンターカップ】 平成27年12月23日～ 東京体育館

男子代表の沼津中央は初戦・近大付属（大阪）と対戦。開始早々からサンプーアンドレがファウルトラブルでベンチに下がる劣勢を強いられる展開。その間8連続でシュートを決められ一時は最大31点差をつけられる。主将・今村拓夢や得点源・石丸彪のドライブも相手に警戒され得点源も封じられる中、最終Qに15点差まで追いつがるが逆転ならず、2年ぶりの出場を白星で飾れなかった。女子代表の常葉学園は作新学院（栃木）と対戦。序盤篠宮杏奈、見崎南美、河合夏海、高橋夏瑠ら主力勢の爆発的な攻撃で第1Q22-9、第2Qには最大17点までリードを広げたが、中盤以降インサイドの守りを厚くし常葉の攻撃を封じる作新学院の守りを攻めあぐみ、さらにゾーンアタックも十分に機能せず主導権を奪えないまま55-54、常葉1点リードで迎えた第4Q残り1.9秒、作新学院捨て身のシュートが鮮やかに決まり逆転。常葉にとって10年ぶりの初戦敗退、そして県勢男女とも同じく10年ぶりに大会初日で姿を消した。

#### 【東海新人大会】 平成28年2月13日、14日 岐阜メモリアルセンター、ヒマラヤアリーナ

岐阜県開催となったこの大会、男子は浜松学院、飛龍、沼津中央、女子は浜松学院、浜松開誠館、市立沼津が出場した。浜松学院は初のアベック出場を果たした。男子は県新人3位の沼津中央が愛知2位の桜丘、岐阜1位・美濃加茂を連破、サンプーはこの2試合で59得点をたたき出した。準決勝、県新人覇者・浜松学院との静岡ダービーも征し一気に決勝まで進む。決勝戦ではウィンターカップ4位の中部大第一に惜敗、5年ぶりの優勝を逃し7年間チームを率いた杉村敏英総監督の勇退を白星で飾れなかった。女子は県王者の浜松学院と、準優勝の浜松開誠館がともに初戦で敗退、市立沼津は初戦・県立岐阜商業（岐阜）に快勝したが2回戦で大会10連覇中の桜花学園（愛知）の牙城を崩せず、上位進出は果たせなかった。

#### 【東海高校総体】 平成28年6月11日、12日 岐阜メモリアルセンター

東海新人同様、岐阜県での開催となった東海総体。男子は沼津中央、浜松学院、そして決勝リーグで飛龍との接戦を制し11年連続の出場を決めた藤枝明誠、女子は浜松開誠館、市立沼津、そして惜しくもインターハイ出場を逃した常葉学園が出場した。男子・浜松学院は桜丘、美濃加茂に連勝、特に準々決勝・美濃加茂戦ではガードの石川晴道が攻撃の軸となり14得点、4アシスト。続く準決勝では4月の埼玉カップで敗れている中部大第一に振り返り討ちされたが、四日市工業との3位決定戦でダシルバヒサシが厳しいマークの中24得点、青島和哉も活躍し見事3位を勝ち取った。県王者・沼津中央は決勝まで危なげなく勝ち進み東海新人決勝で敗れた中部大第一と再戦、互いにトランジションの激しい展開となったが中部大第一が3Pシュートやドライブなど多彩な攻めを見せ沼津中央を一蹴。宮澤亮の健闘が光った一戦ではあったが攻撃の一角を担う山田陸の欠場が大きく響いた。女子は市立沼津、常葉学園が2回戦で敗退、残る浜松開誠館は2回戦、愛知の強豪・星城に快勝したが準決勝で桜花学園に敗れ、3

位決定戦ではいなべ総合学園（三重）相手に最終Q陽本麻優、栗田真生を軸に3点差まで迫る怒涛の追い上げを見せたが力及ばず、惜しくも東海4位に終わった。

【全国高校総体】 平成28年7月31日～ 広島サンプラザホール、広島グリーンアリーナ他

4年前のウィンターカップも開催された広島でのインターハイ。男子は沼津中央、浜松学院、女子は8年ぶり出場の浜松開誠館、そして市立沼津が出場した。沼津中央は内外にバランスのとれた育英（兵庫）と対戦。サンブーの攻撃を育英のチームディフェンスに封じられる。終了間際、ストーリング（ボールまわし）で逃げ切りを図る相手にファウルゲームを仕掛け何とか勝機を見出そうとするが最後は2点差で逃げ切られ、まさかの初戦敗退となった。浜松学院は法政大二（神奈川）、豊浦（山口）を寄せ付けない圧勝。しかしながら3回戦・開志国際（新潟）戦では全国トップレベルを誇る高さに苦戦、センター・ババガーのインサイド封じに苦慮したが、第4Q残り4分石川の3Pシュートで逆転。最後は同点に追いつかれたが猛追をしのぎ切り勝負は延長戦へ。逆転につぐ逆転、近年まれに見るシーソーゲームは相手エース・西村一輝のシュートが決勝点となり、91-94で19年ぶりの全国ベスト8進出を逃した。女子は市立沼津、浜松開誠館ともに危なげなく初戦突破。続く2回戦、市立沼津は関東新人、関東総体を制し実業団並みの高さを誇る八雲学園（東京）と対戦。U-17日本代表の180cm・奥山理々嘉など長身選手相手にオールコートプレスを仕掛けたがインサイドを攻め切れず惜しくも敗退。浜松開誠館は東北新人、東北総体覇者の福島西（福島）にまさかのスタートダッシュを許しその点差がそのまま最終スコアの差となり初の3回戦進出は果たせなかった。福島西お家芸のロースコアゲームに持ち込まれ50得点に抑え込まれたが、その中でも石田悠月が鋭いドライブを駆使し31得点。全国レベルのスキルを観衆に見せつけた。ちなみにこの大会も前年のウィンターカップに続き女子決勝は桜花学園-岐阜女子の東海対決となり、改めて東海女子のレベルの高さが証明された。

【東海国体】 平成28年8月20日、21日 岡崎市中央体育館

10月の岩手国体の出場権を賭けた東海国体が愛知県岡崎市で開催された。今年度は東海ブロックから各種別2枠の本国体出場権が与えられているため、東海4県総当たりリーグ戦で行われた。

少年男子は沼津中央、浜松学院、飛龍、浜松開誠館の選手で編成されたまさに「オール静岡」で臨んだ。沼津中央・サンブー、山田陸、藤原佑介、浜松学院・横川真那斗、ダシルバを中心に三重県、岐阜県を撃破、2年後にインターハイ開催を控え、強化も進む愛知県との戦いは中部大第一、安城学園、桜丘の選手を中心としたまさに全国トップレベルの戦力を誇り苦戦が予想されたが、第3Qに逆転して最後は力の差を見せつけて完勝、見事全勝で3年ぶりの東海国体優勝を果たし岩手国体への切符を手にした。少年女子は東海地区にバスケ王国・愛知、岐阜の両巨頭がそびえたつ全国随一の激戦区、まさに「死のリーグ」。浜松開誠館、市立沼津、常葉学園の選手を中心に藤枝順心・杉本ちひろ、そして駿河総合・加藤陽を加えた最強軍団の布陣で挑んだが、桜花学園を母体とする愛知県に敗れ、続く岐阜女子を母体とする岐阜県との戦いは前半10点差、第3Q終了時15点差と逆転圏内で試合を進めたが惜敗。最終戦・三重県には前半は劣勢を後半一気に差を縮め猛追、第4Q残り1分52-57、5点差まで追いつめたがそのまま逃げ切られ、分厚い東海の壁を破ることは出来ず岩手国体出場を逃した。

【岩手国体】 平成28年10月7日～10日 奥州市総合体育館、一関市総合体育館他

岩手県で開催される国民体育大会。東海国体で全勝優勝した少年男子は2年ぶりの本国体出場。1回戦広島インターハイ3位の山形南を母体とする山形県と対戦、勝てばインターハイ優勝の福岡第一と名門・福岡大大濠の連合チーム・福岡県との戦いが待っている。どの県との戦いも厳しい展開が予想されるが、この戦いをクリアすれば一気に優勝も現実味を帯びてくるだけに47年ぶりの優勝を目指し、県代表選手一丸となつての奮闘を期待する。